



平成 22 年 4 月 27 日  
独立行政法人国立科学博物館

### 「クレマチス展」開催について

独立行政法人国立科学博物館筑波実験植物園（園長：加藤 雅啓）では、来る 5 月 1 日（土）から 6 月 6 日（日）まで、企画展「クレマチス展」を開催いたします。

クレマチスは、キンポウゲ科センニンソウ属（Clematis）をさし、我が国では古くからテッセンあるいは、カザグルマと呼ばれて親しまれてきた植物のなかまであり、日本には 23 種 7 変種 1 雑種が自生しています。

今回の企画展では、大輪系クレマチスの交配親になった絶滅危惧種カザグルマの各地変異を収集し、世界各地に自生するクレマチスの原種と、主として交配育種によって作出された園芸品種を公開いたします。クレマチスの仲間の華麗な花や、自然と人が作り出した素晴らしい色や形を観賞・観察していただき、併せてその植物学的知識の普及を目的としています。

**カザグルマは 35 系統を展示し、早咲きの韓国産（薄黄色）からダム水没予定地であった群馬県川原湯温泉産（薄いブルー）や遅咲きの水戸市周辺産（白色）など多様な各地の変異を自生地から保全の為に移植または挿し木繁殖したものです。当園のクレマチス園は、原種を含め約 200 種類、1,200 株を地植えで維持管理しており、日本では有数の観賞展示会場であり、土壌改良により例年以上に良く育っています。この展示会場は、クレマチス展期間中のみ一般に公開しています。**

なお、本件につきましては別紙にて詳細を添付いたしますので、ご参照下さい。  
よろしくお願ひ申し上げます。

#### 本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

筑波地区事務部 総務担当 仕黒 香

担当研究員：松本 定（植物研究部多様性解析・保全グループ）

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL:029-851-5159 FAX:029-853-8998

E-mail: kishitsu@kahaku.go.jp

国立科学博物館 HP <http://www.kahaku.go.jp/>

国立科学博物館筑波実験植物園 HP <http://www.tbg.kahaku.go.jp/>

## クレマチス展概要

1. 名 称 企画展「クレマチス展」
2. 主 催 国立科学博物館筑波実験植物園
3. 協 力 日本クレマチス協会
4. 場 所 国立科学博物館 筑波実験植物園  
茨城県つくば市天久保 4-1-1 電話 029-851-5159
5. 会 期 平成 22 年 5 月 1 日（土）～6 月 6 日（日）
6. 開園時間 9：00～17：00（入園は 16：30 まで延長）
7. 休園日 5 月 6 日（木）、5 月 10 日（月）、5 月 17 日（月）、5 月 24 日（月）、  
5 月 31 日（月）
8. 展示の構成 導入として①クレマチスとは②クレマチスの特徴③クレマチスの園芸  
品種、の順に解説する。次に、その構成として園芸品種と原種をその成  
立にかかわった原種の性質が強く出ている系ごとに、パンテス（カザグ  
ルマ）系、八重咲品種とフロリダ（テッセン）系、アトラゲネ系、テキ  
センシス系、インテグリフォリア系、ウィティケラ系、ジャックマニー  
系、ラヌギノーサ系、及びモンタナ系、ヘラクレイフォリア（クサボタ  
ン）系、などに分けて主として地植えの状態で開催解説する。  
展示期間が長いため鉢物、開花株 50 鉢を補充する。
9. 関連事業 ①展示案内  
場所：クレマチス展展示会場  
5 月 1 日（土）13:30～15:00  
講師：筑波実験植物園 松本 定  
  
②日本の野生種写真展  
写真提供・解説 三池田 修  
場所：教育棟  
  
③セミナー  
場所：研修展示館 3 F  
5 月 9 日（日）13:00～14:20  
クレマチス属の自然史「種の多様性と遺伝的多様性」  
講師：東京都立神代高等学校教諭 三池田 修

同日（日）14:30～15:50 クレマチスの園芸文化史「クレマチスの魅力」

講師：日本クレマチス協会長 竹内 博

5月30日（日）13:30～15:00

クレマチスの多様な花の色を探る

講師：筑波実験植物園 岩科 司

同日（日）15:00～16:00

絶滅危惧種カザグルマの変異と保全

講師：東京大学大学院保全生態学研究室 飯島 眞

④会期中、クレマチスの苗や鉢物、季節の植物の販売を行う。

場所：教育棟

10. 入園料 一般・大学生 300円、高校生以下及び65歳以上無料  
団体20名以上200円  
※5/4（火・祝）、5/18（火）は入園無料

11. 交通案内 <<車>> 常磐自動車道 桜土浦 I.C. から北（筑波山方面）へ約8km。  
<<電車・バス>> つくばエクスプレス「つくば駅」より関東鉄道バス  
「テクノパーク桜循環」行きにて「筑波実験植物園前」下車、徒歩3分。

## 「クレマチス」

クレマチスはキンポウゲ科、センニンソウ属 (Clematis) をさし、つる性ないしは株立性の植物群です。温帯地域を中心に約 300 種が、日本ではカザグルマ、ハンショウヅル、センニンソウなど 23 種 7 変種 1 雑種が知られています。19 世紀の初めにシーボルトらにより日本産のカザグルマ (早咲～中間咲)、中国原産のラヌギノーサやテッセン (以上中間咲) などがヨーロッパに渡りました。とくにカザグルマは 1850 年代のヨーロッパで多種類との交配親として重用され、今日のクレマチス発展に大きな役割を果たしました。交配親として世界中で親しまれ、茶花や伝統工芸品の描画題材にされてきたカザグルマですが、日本から朝鮮半島に限られて分布する絶滅の恐れのある種です。

当園は、野生種と代表的園芸品種約 1,200 株以上を保存し、特に大輪系園芸品種の改良に貢献した日本が誇るカザグルマとその園芸品種の系統保存に力を入れています。絶滅危惧種カザグルマの保全を中心に、中国のラヌギノーサ、地中海沿岸の野生種ウィティケラ、およびこれらを交配したジャックマニーの 4 系統をもとに、現在では、これらの系統別の整理は困難ですが、ここでは上記 4 系統のほかにそれらの八重咲き品種と中国のフロリダ (テッセン) 系と、アメリカのテキセンシス系、中央アジアのインテグリフォリア系、アルピナ (アトラゲネ) 系、モンタナ系、ヘラクレイフォリア (クサボタン) 系、およびその他にわけて展示解説しています。セミナーでは自然史として種の多様性と遺伝的多様性や絶滅危惧種カザグルマの自生地における変異や衰退の原因、保全のための取組、クレマチスの新物質であった花色と 2500 以上の品種の由来など含め園芸文化について紹介します。



カザグルマ 群馬・長野原川原湯温泉産





カザグルマ 茨城・内原町東産



ジャックマニー系品種 (ラヌギノーサ系×ウィティケラ系)